

(2)専門課程Ⅱ

①(地域保健福祉分野)フォローアップ調査回答合計集計表

Q1. 本研修は役にたっていますか。

| 回 答 | 派遣元 | 研修生 |
|---------------|-----------|-----------|
| 1 たいへん役に立っている | 1(25.0%) | 1(14.3%) |
| 2 役に立っている | 3(75.0%) | 4(57.1%) |
| 3 どちらとも言えない | 0(0.0%) | 2(28.6%) |
| 4 役にたっていない | 0(0.0%) | 0(0.0%) |
| 5 全く役にたっていない | 0(0.0%) | 0(0.0%) |

SQ1-1 (Q1で1, 2を選んだ方へ)どのような点で役に立っていると感じますか。(自由記載)

業務との関連性があり役立っている。
 業務上、県民栄養調査などの統計を扱う事が多いが、対象者の設定や回収率などからその調査結果の信頼度など判断できるようになっている。
 地域保健活動の考え方から具体的な地域保健活動の展開方法等、幅広い内容の研修が受講でき、現場の地域保健活動を総合的に推進する事ができる。
 後輩育成
 業務上、県民栄養調査などの統計を扱う事が多いが、対象者の設定や回収率などからその調査結果を用いる時の注意など、判断できるようになった。また疫学関係の事も調査をする時など役立っています。
 ①研修内容の講義内容が実務に役立っている②研究(論文発表)を通じ、それが現場目標で推進されつつあるとともに、自分の保健師親の構築や将来の職務目標(何を大切にしていけるか)を立てるのに役立った③先生方とのつながり(卒業同窓生とのつながり)。
 ①課題への考え方・取り組み方に関し、多角的な考え方ができるようになったこと。考えられる要因について、リストアップし、その中から、どこに働きかけるのが、現時点で効果的なのか、考えていくこと②他職種との共働
 保健師養成課程の学校に配属されている為、講義や実習等において研修で学んだ知識を生かす事ができました。しかし、逆に現場における活動に対しては、直接役立てることができていません。
 ①科学院の先生方とのつながりができた②いろんな情報が役に立っていると思う。

SQ1-2(Q1で4を選んだ方へ)役に立っていない理由

| |
|--|
| |
|--|

SQ1-3(Q1で5を選んだ方へ)全く役にたっていない理由

| |
|--|
| |
|--|

Q-2. 今後も本研修に職員を派遣したいと思いますか。

| 回 答 | 派遣元 |
|-------------|-----------|
| 1 ぜひ派遣したい | 0(0.0%) |
| 2 派遣したい | 3(75.0%) |
| 3 どちらとも言えない | 1(25.0%) |
| 4 派遣したくない | 0(0.0%) |
| 5 絶対派遣したくない | 0(0.0%) |

SQ2-1(Q2で4を選んだ方へ)派遣したくない理由

| |
|--|
| |
|--|

SQ2-2(Q2で5を選んだ方へ)絶対派遣したくない理由

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

①公衆衛生を総合的に学ぶことができるので、今後も各種専門分野毎の研修を継続して欲しい②1年間の研修は有意義ではあるが、派遣元としても予算面で厳しい状況もあるので、6ヶ月コースまたは1年コースでも科学院への出席期間を半年とし、残りの半年はeラーニング等にするなど、教育内容と方法の多様化を検討して欲しい③少なくとも、保健師が全国から10名程度参加し、情報交換・交流を図りながら、研修を受講できるとより有意義である。

Q-2. 本研修を他の人に勧めたいと思いますか。

| 回 答 | 研修生 |
|-------------|-----------|
| 1 強く勧めたい | 0(0.0%) |
| 2 勧めたい | 3(42.9%) |
| 3 どちらとも言えない | 4(57.1%) |
| 4 勧めたくない | 0(0.0%) |
| 5 絶対勧めたくない | 0(0.0%) |

SQ2-1(Q2で4を選んだ方へ)勧めたくない理由

SQ2-2(Q2で5を選んだ方へ)絶対勧めたくない理由

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

私達のクラスは確か5名だったと思いますが、かなり少ない人数にもかかわらず、外部講師の講義も聞く事ができ、贅沢に思いました。長期(1年)の研修は、今後かなり厳しいと思います。1年間お世話になりました。

組織再編や業務の変化がある時期に現場を長期間はなれる事を考えると他人に安易には勧めづらい。また、研修で学んだことをダイレクトに活かせる部署への配慮がどうかも研修効果の判断に影響する。

1年間の研修期間中に数日間～数週間という研修が数多くありました。そういった短期間の研修の聴講などがもっと自由にできたら良かったと思います。

たくさん内容をありがとうございました。

研修主任の総括的コメント

研修修了対象者8名中(18年度5名、19年度3名:保健師6名、管理栄養士2名)、回答者は研修生6名、派遣元4名である。本研修の役立ち状況について、派遣元は100%、研修生の7割が役立っていると回答し、その内容は県民栄養調査の対応(疫学、統計、地域診断)や地域保健活動の実務、また特別研究での学び(職務目標、現場の目標設定)、人脈(科学院の先生、研修仲間)が出来た等満足した意見である。しかし、研修生の3割は「どちらともいえない」と回答し、研修終了後の配置が役立てることの出来ない部署である為と思われる意見である。派遣元は今後の派遣について、研修意義は認めているものの、予算面を理由にeラーニングを活用(科学院での出席日数短縮)などの教育法多様化を希望する意見、や研修活性を期待した研修生増加を希望する意見があった。「他の人に勧めたいか」の研修修了生の回答に「どちらともいえない」が7割と多かったが、その理由として、組織再編、業務内容の変化が大きい中で1年は長い、研修で学んだことをダイレクトに活かせる部署への配置でないことを懸念した意見であった。事実、研修終了後に配置換えになった研修生も少なくなかった。

個別質問

(地域保健福祉分野)フォローアップ調査

1-(1)研修で学んだ判断の基礎となる最新の公衆衛生の動向について

| | |
|------------------|-----------|
| ①保健所内で伝達、説明ができた | 1(16.7%) |
| ②県(市)内で伝達、説明ができた | 2(33.3%) |
| ③管轄市町村に伝達、説明ができた | 0(0.0%) |
| ④特に伝達、説明はしていない | 3(50.0%) |

1-(2)研修で学んだ判断の基礎となる最新の公衆衛生の動向を

| | |
|------------------------|-----------|
| ①現場における判断に大いに生かすことが出来た | 1(16.7%) |
| ②現場における判断に少し生かすことが出来た | 1(16.7%) |
| ③現場における判断にあまり役立たなかった | 0(0.0%) |
| ④どちらともいえない | 4(66.7%) |

①、②に回答した方にお聞きます。

具体的にどのような際の判断に生かすことができましたか。

国の考え方を踏まえ、自分の自治体、部署でどう展開するか判断

2-(1)研修で学んだ地域の健康問題と公衆衛生活動の見直しについて

| | |
|------------------|-----------|
| ①保健所内で伝達、説明ができた | 2(33.3%) |
| ②県(市)内で伝達、説明ができた | 1(16.7%) |
| ③管轄市町村に伝達、説明ができた | 0(0.0%) |
| ④特に伝達、説明はしていない | 3(50.0%) |

2-(2)研修で学んだ地域の健康問題と公衆衛生活動の見直しについて

| | |
|------------------------|-----------|
| ①保健所内で事業評価を実施することができた | 1(16.7%) |
| ②県(市)内で事業評価を実施することができた | 0(0.0%) |
| ③管轄市町村で事業評価を実施することができた | 0(0.0%) |
| ④まだ事業評価には取り組んでいない | 5(83.3%) |

3-(1)研修で学んだ公衆衛生における指導者の役割について

| | |
|------------------|-----------|
| ①保健所内で伝達、説明ができた | 1(16.7%) |
| ②県(市)内で伝達、説明ができた | 1(16.7%) |
| ③管轄市町村に伝達、説明ができた | 0(0.0%) |
| ④特に伝達、説明はしていない | 3(50.0%) |

3-(2)研修で学んだ公衆衛生における指導者の役割について

| | |
|----------------------------|-----------|
| ①現場において大いに指導者の役割を發揮できた | 0(0.0%) |
| ②現場において少し指導者の役割を發揮できた | 2(33.3%) |
| ③現場における指導者の役割發揮にあまり役立たなかった | 0(0.0%) |
| ④どちらともいえない | 4(66.7%) |

①、②に回答した方にお聞きします。

具体的にどのような役割を發揮することができましたか。

指導(おもに新人)、後輩の育成と自分のおかれた職位の立場の整理

3-(3)公衆衛生活動の課題(自然災害時活動、児童虐待など)について

| | |
|------------------------------|-----------|
| ①現場における課題への取り組みに大いに生かすことが出来た | 1(16.7%) |
| ②現場における課題への取り組みに少し生かすことが出来た | 3(50.0%) |
| ③現場における課題への取り組みにあまり役立たなかった | 0(0.0%) |
| ④どちらともいえない | 2(33.3%) |

①、②に回答した方にお聞きします。

具体的にどんな課題への取り組みにどのように生かすことができましたか。

研修企画

この設問を研究も含めてということならば①になります。

管内市町村への働きかけとして研修資料を使った。

4-(1)人材育成のための体制、方法について

| | |
|------------------|-----------|
| ①保健所内で伝達、説明ができた | 1(16.7%) |
| ②県(市)内で伝達、説明ができた | 2(33.3%) |
| ③管轄市町村に伝達、説明ができた | 0(0.0%) |
| ④特に伝達、説明はしていない | 4(66.7%) |

4-(2)人材育成のための体制、方法について

| | |
|--------------------------|-----------|
| ①現場における現任教育に大いに生かすことが出来た | 0(0.0%) |
| ②現場における現任教育に少し生かすことが出来た | 3(50.0%) |
| ③現場における現任教育にあまり役立たなかった | 1(16.7%) |
| ④どちらともいえない | 2(33.3%) |

①、②に回答した方にお聞きします。

具体的に現場教育にどのように生かすことができましたか。

所内の会議で情報交換の場と検討の際

中堅前期までの若手保健師の自主勉強会を数名で立ち上げ、その活動に生かすようにしている。

5-(1)保健計画の策定過程で重視すべき点について

| | |
|------------------|-----------|
| ①保健所内で伝達、説明ができた | 2(33.3%) |
| ②県(市)内で伝達、説明ができた | 0(0.0%) |
| ③管轄市町村に伝達、説明ができた | 0(0.0%) |
| ④特に伝達、説明はしていない | 4(66.7%) |

5-(2)保健計画の策定過程で重視すべき点について

| | |
|--------------------------|-----------|
| ①現場における計画策定に大いに生かすことが出来た | 1(16.7%) |
| ②現場における計画策定に少し生かすことが出来た | 1(16.7%) |
| ③現場における計画策定にあまり役立たなかった | 0(0.0%) |
| ④どちらともいえない | 0(0.0%) |
| ⑤計画策定に生かす機会がなかった | 4(66.7%) |

①、②に回答した方にお聞きします。

具体的に計画策定にどのように生かすことができましたか

策定段階でワーキングのリーダーとして研修講義や資料のプロセスのところをもとに実施してみた。

6-(1) 保健活動における効果的なプレゼンテーションについて

| | |
|------------------|-----------|
| ①保健所内で伝達、説明ができた | 0(0.0%) |
| ②県(市)内で伝達、説明ができた | 1(16.7%) |
| ③管轄市町村に伝達、説明ができた | 0(0.0%) |
| ④特に伝達、説明はしていない | 5(83.3%) |

6-(2) 保健活動における効果的なプレゼンテーションについて

| | |
|-------------------------------|-----------|
| ①現場におけるプレゼンテーションに大いに生かすことが出来た | 0(0.0%) |
| ②現場におけるプレゼンテーションに少し生かすことが出来た | 4(66.7%) |
| ③現場におけるプレゼンテーションにあまり役立たなかった | 0(0.0%) |
| ④どちらともいえない | 2(33.3%) |
| ⑤プレゼンテーションの機会がなかった | 0(0.0%) |

①、②に回答した方にお聞きします。

具体的にどんなプレゼンテーションの際にどのように生かすことができましたか。

研修実施時

自分のプレゼンで、不足、不得手の所を気づいたので、そこは意識して改善するように努力している。

文字のポイント、要点の整理

講義などを行う際のプレゼンテーションに生かすようにしている。

7-(1) 研修に参加して高まった保健活動へのモチベーションややる気・元気等が

| | |
|-----------------|-----------|
| ①現場でより一層高まっている | 1(16.7%) |
| ②現場で維持されている | 4(66.7%) |
| ③現場で低下してきている | 0(0.0%) |
| ④研修ではとくに高まらなかった | 1(16.7%) |

③に回答した方にお聞きします

現場に戻って保健活動へのモチベーションややる気・元気が低下した原因はなんですか。

7-(2) 研修で構築された他の参加者とのネットワークについて

| | |
|------------------------|-----------|
| ①現場において大いに生かすことができた | 0(0.0%) |
| ②現場において少し生かすことが出来た | 2(33.3%) |
| ③現場においてあまり役立たなかった | 0(0.0%) |
| ④現場において今のところ生かす機会がなかった | 4(66.7%) |
| ⑤研修でネットワークはできなかった | 0(0.0%) |

①、②に回答した方にお聞きします。

具体的にどのようにネットワークを活用しましたか。

他県の状況を聴くなどの情報収集や情報交換

8. 研修終了から現時点での思いや、研修に対する意見・要望があればご自由にお書き下さい。

政令市の保健センターにいたので、他の方と状況が違うかもしれません。

せっかく1年間という長期の研修を受講させていただいたので、何か現場に還元したいと思いながら果たせておらず、研修中に感じていた専門職としての課題をクリアされてはいませんが、モチベーションを持ち続けたいと思います。

分野担当責任者の評価、分析、コメント

研修修了対象者8名中(18年度5名、19年度3名:保健師6名、管理栄養士2名)、回答者は研修生6名である。前回、研修修了後に配置換えになった研修生も少なくなく、組織再編、業務内容の変化が大きい中で1年は長い、研修で学んだことをダイレクトに生かせる部署への配置でないことを懸念した意見であったことを報告した。今回の結果でも、伝達・説明すらできていない、現場で生かす機会がなかったなどの意見が半数以上であり、科学院での学びが現場に反映されておらず、研修生、派遣元、本院とのキャッチボールが出来ていない状況である。この点について研修の在り方を十分に検討する必要があると思われる。

② (生活衛生環境分野)フォローアップ調査回答合計集計表

Q1. 本研修は役にたっていますか。

| 回 答 | 派遣元 | 研修生 |
|---------------|-----|-----------|
| 1 たいへん役に立っている | | 0(0.0%) |
| 2 役に立っている | | 1(100.0%) |
| 3 どちらとも言えない | | 0(0.0%) |
| 4 役にたっていない | | 0(0.0%) |
| 5 全く役にたっていない | | 0(0.0%) |

SQ1-1 (Q1で1, 2を選んだ方へ)どのような点で役に立っていると感じますか。(自由記載)

統計の知識が非常に役に立っています。

SQ1-2(Q1で4を選んだ方へ)役に立っていない理由

SQ1-3(Q1で5を選んだ方へ)全く役にたっていない理由

Q-2. 今後も本研修に職員を派遣したいと思いますか。

| 回 答 | 派遣元 |
|-------------|-----|
| 1 ぜひ派遣したい | |
| 2 派遣したい | |
| 3 どちらとも言えない | |
| 4 派遣したくない | |
| 5 絶対派遣したくない | |

SQ2-1(Q2で4を選んだ方へ)派遣したくない理由

SQ2-2(Q2で5を選んだ方へ)絶対派遣したくない理由

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

Q-2. 本研修を他の人に勧めたいと思いますか。

| 回 答 | 研修生 |
|-------------|-----------|
| 1 強く勧めたい | 0(0.0%) |
| 2 勧めたい | 0(0.0%) |
| 3 どちらとも言えない | 1(100.0%) |
| 4 勧めたくない | 0(0.0%) |
| 5 絶対勧めたくない | 0(0.0%) |

SQ2-1(Q2で4を選んだ方へ)勧めたくない理由

SQ2-2(Q2で5を選んだ方へ)絶対勧めたくない理由

Q3: 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

研修主任の総括的コメント

回答者は一人であるが、研修生にとって役立っているとのことであり、基礎科目の知識が役に立っているとのことであった。今後は、さらに効果的な研修にするために遠隔教育を積極的にとりいれたい。

個別質問

(生活衛生環境分野)フォローアップ調査

質問1. 本研修を修了したのはいつですか？

| | |
|---------|-----------|
| 平成19年終了 | 1(100.0%) |
|---------|-----------|

質問2. 自費の方で、本課程を修了後、環境保健・生活衛生関係の職種に就職できましたか？

| | |
|--------|-----------|
| (a)はい | 0(0.0%) |
| (b)いいえ | 1(100.0%) |

(a)と回答した方に、お聞きします。

質問1-1 勤務先の区分はどちらですか？

| | |
|-----------|--|
| (ア)国 | |
| (イ)地方公共団体 | |
| (ウ)各種団体 | |
| (エ)民間 | |
| (オ)その他 | |

その他具体例

| |
|--|
| |
|--|

質問1-2 本課程の修了が就職するのに役立ちましたか？

| | |
|--------------|--|
| (ア)役立った | |
| (イ)役立たなかった | |
| (ウ)どちらともいえない | |

質問1-3 現在の職場の業務において、本課程の受講の効果がありますか？

| | |
|--------------|--|
| (ア)はい | |
| (イ)いいえ | |
| (ウ)どちらともいえない | |

(b)と回答した方に、お聞きします。

質問1-4 将来、環境保健・生活衛生関係の職種を希望しますか？

| | |
|--------------|-----------|
| (ア)はい | 0(0.0%) |
| (イ)いいえ | 0(0.0%) |
| (ウ)どちらともいえない | 1(100.0%) |

質問2. 派遣の方で、本課程を修了後、環境保健・生活衛生関係の職におられますか？

| | |
|------------------|--|
| (a)はい | |
| (b)異動して別職種となりました | |

(a)と回答した方に、お聞きします。

質問2-1 現在の職場において、本課程の受講が、ご自身のキャリア・アップに役立ちましたか？

| | |
|--------------|--|
| (ア)はい | |
| (イ)いいえ | |
| (ウ)どちらともいえない | |

質問2-2 どのような面でキャリア・アップに繋がりましたか？

| | |
|---------|--|
| (ア)特別昇給 | |
| (イ)役職 | |
| (ウ)転職 | |

(b)と回答した方に、お聞きします。

質問2-4 将来、環境保健・生活衛生関係の職種を希望しますか？

| | |
|--------------|--|
| (ア)はい | |
| (イ)いいえ | |
| (ウ)どちらともいえない | |

質問3. 研修で構築した他の受講者とのネットワークは、受講者の業務に

| | |
|-------------------|-----------|
| (a)大いに活かされている。 | |
| (b)おおむね活かされている。 | |
| (c)今のところ活かす機会がない。 | 1(100.0%) |
| (d)どちらともいえない | |

質問4. 特別研究の成果を、学会誌等に発表しましたか？

| | |
|--------|-----------|
| (a)はい | |
| (b)いいえ | 1(100.0%) |
| (c)準備中 | |

(a)と回答した方にお聞きします。

質問4-2 予定している発表方法は、何ですか(複数回答可)

| | |
|---------------------|--|
| (ア)欧文論文(査読有り) | |
| (イ)レビュー等の欧文発表(査読無し) | |
| (ウ)海外学会発表 | |
| (エ)国内論文(査読有り) | |
| (オ)国内学会発表 | |
| (カ)その他 | |

その他具体例

質問5. 現在の業務より、専門課程環境保健生活衛生分野で取り入れるべき講義などについてアイデアがありましたら、お願いいたします。

広く浅い講義でなく、専門的な知識を深められる講義にすると、後々に役に立つのではないかと思います

研修主任の評価、分析、コメント

回答者は一人であり、環境保健・生活衛生分野の職種に就職できていないとのことであった。回答を得られた項目「質問5:本分野で取り入れるべき講義について」では専門的な知識を深められる講義にしてほしいとのことであった。今後は、高度な専門知識が得られるよう、専門課程の科目担当者に周知したい。

個別質問

③(生物統計分野)フォローアップ調査

1. 本分野を修了したのはいつですか。

| | |
|---------|-----------|
| 平成18年終了 | 1(11.1%) |
| 平成19年終了 | 4(44.4%) |
| 平成20年終了 | 4(44.4%) |

2. 本分野を修了したときの年齢を選んでください。

| | |
|-----------|-----------|
| ア)～29歳 | 4(44.4%) |
| イ)30歳～39歳 | 1(11.1%) |
| ウ)40歳～49歳 | 4(44.4%) |
| エ)50歳～ | 0(0.0%) |

3. 現在の勤務先は次のうちどれですか。

| | |
|-----------|-----------|
| ア) 製薬関連企業 | 5(55.6%) |
| イ) 大学等の教員 | 0(0.0%) |
| ウ) 医薬系研究所 | 0(0.0%) |
| エ) 病院勤務 | 0(0.0%) |
| オ) 大学院生 | 3(33.3%) |
| キ) その他 | 1(11.1%) |

その他具体例

財団法人

4. 本分野を入学する前と修了したあとでの変化についてお聞きます。

A. 生物統計学に関する知識について

| | |
|-------------|-----------|
| ア)増えた | 8(88.9%) |
| イ)やや増えた | 1(11.1%) |
| ウ)あまり増えなかった | 0(0.0%) |
| エ)全く増えなかった | 0(0.0%) |

B. 生物統計学に関する技能について

| | |
|--------------|-----------|
| ア)向上した | 8(88.9%) |
| イ)やや向上した | 0(0.0%) |
| ウ)あまり向上しなかった | 1(11.1%) |
| エ)全く向上しなかった | 0(0.0%) |

C. 医学研究(臨床試験、疫学研究など)の統計的デザインに係わった頻度について(統計相談を含む)

| | |
|--------------|-----------|
| ア)増した | 6(66.7%) |
| イ)やや増した | 2(22.2%) |
| ウ)あまり変わらなかった | 1(11.1%) |
| エ)減った | 0(0.0%) |

5. 本分野を修了してからこれまでの間に、生物統計学(方法論、データ解析を含む)に関する研究発表(学会や研究会などで)を行ったことはありますか。

| | |
|------|-----------|
| ア)ある | 4(44.4%) |
| イ)ない | 5(55.6%) |

ある場合その回数は

| | |
|----|---------|
| 1回 | 2(50%) |
| 2回 | 1(25%) |
| 4回 | 1(25%) |

6. 本分野を修了してからこれまでの間に、統計的デザインに直接係わり論文発表を行ったことはありますか(共著も含む)

| | |
|------|-----------|
| ア)ある | 0(0.0%) |
| イ)ない | 9(100.0%) |

7. 本分野で学んだことが、いまの仕事に役立っていると思いますか。

| | |
|--------------|-----------|
| ア)役立っている | 9(100.0%) |
| イ)やや役立っている | 0(0.0%) |
| ウ)あまり役立っていない | 0(0.0%) |
| エ)全く役立っていない | 0(0.0%) |

具体的にはどのようなことでしたか。

| |
|---|
| <p>①医学論文を頑張ったら、読めるようになった②パワーポイントによるプレゼンが身についたので職場ですぐに役立った③現在の職場では様々なタイプのプロトコルを取り扱うが、科学院で習った範囲の手法が殆どであったので、取り組みやすかった。</p> <p>臨床試験のデザインや統計的解析法を学ぶことにより、製薬メーカーでの解析業務に携わっている。基本的な考え方、プログラミングについて、また研究計画の立て方についての基本事項を知った。</p> <p>数理を用いて、デザインを考える事ができるようになった。</p> <p>入学する前は、教科書に載っている内容を真似ていただけであったが、自ら導出する事ができるようになり、研究デザインデータに応じて、応用する事ができるようになった。</p> <p>臨床データの統計解析を考える場合や研究報告等を読むような場合に少しは理解できるようになったこと。</p> <p>全体</p> |
|---|

8. 本分野修了後、周囲の人に生物統計学を教えたり指導したりしたことはありましたか。

| | |
|--------|-----------|
| ア)あった | 7(77.8%) |
| イ)なかった | 2(22.2%) |

9. 総合的にみて、本コースを受講してよかったと思いますか。

| | |
|-------------|-----------|
| ア)よかった | 9(100.0%) |
| イ)どちらともいえない | 0(0.0%) |
| ウ)よくなかった | 0(0.0%) |

10. 本分野の受講を、周りの人に勧めたいと思いますか。

| | |
|-----------------|-----------|
| ア)勧めたい | 8(88.9%) |
| イ)とくに勧めたいとは思わない | 0(0.0%) |

11. 本分野に関するご感想やご要望、ぜひ科学院で行ってほしいと思う研修などがありましたら、ご記入ください。

エンドポイントの設定から考えるようなプロトコル開発のさわりの演習をやってみるのもおもしろいかも。医師やプロマネ・データマネージャー等統計を専門としない人たちへのプレ全力が仕事をする上ではとても重要なので、セミナー発表は(専門化向けであっても)良い訓練の場になります。

大変、貴重な研修内容でした。今後も、生物統計分野の人材育成のため、質及びレベルの高い研修の継続を期待します。

通信教育での生物統計の教育、主に大学病院で、研究に携わる医師に向けたもので、添削付き、2年～4年に渡るプログラムとして欲しい。現場で切実な需要があるはずです。

修 I を取得できる基準が若干あまいと思った。

各科目について、専門の先生が講義を行っていただけのため、本質的な内容をわかりやすく理解できた。

非常に難しいコースであったと感じています。自分の力不足から講義の内容を十分に理解はできていないと感じています。

分野担当責任者の評価、分析、コメント

回答は13名中9名から寄せられた(回収率7割)。本分野への入学前後での変化に関する質問については、生物統計学の知識・技能について1名を除き、知識が増え、技能が向上したと回答していた。なお、やや増えた、あまり向上しなかったと回答した1名は実際には研究成果を学会で発表するに至っており、謙虚に回答したと受けとられた。

一方、統計的デザインに係わった頻度については8名が増えたと回答し、学会での研究発表を行ったものが4名で、多いものでは終了後2年間で4回という回答もあった。なお、統計的デザインに直接係わり論文発表を行ったことがあるかに関しては0であったが、修了後最長3年未満ということを考えれば、これは今後期待されよう。

仕事に役立っているという回答は全員が役立っていると回答し、周囲の人に生物統計学を教えたら指導したことについては7名があったと回答していた。具体的内容では科学院で習った知識が業務で行う生物統計の必要なことをほとんどカバーしていた、数理を用いてデザインを考えることができるようになった、モデルを自ら導出し、研究デザイン・データに応じて応用することができるようになった、などがある。これらより本分野の目的である「臨床試験(疫学調査含む)に係わる生物統計学の専門家」の育成と、生物統計学の専門的知識を必要とする業務において指導的立場で実践活動を推進できる人材を養成することがある程度達成されつつあるものと考えられた。今後、本分野の教育をさらに継続していくことにより、日本における生物統計学の普及と発展に寄与していく可能性が示唆された。

修了生による本コースの総合的評価では、全員が受講してよかったと回答し、周りの人に勧めたい(「ガッツのある人に勧めたい」も含める)と全員が回答しており、受講生の満足度も高い研修であったと考えられた。

研修生からの感想・要望としては、今後も質およびレベルの高い研修の継続、専門の誠意性の講義が本質的内容の理解に役立っているなど、本分野のこれまでの内容をさらに活かしていくことが、意義があると考えられた。なお、通信教育での教育も新たなプログラムとしてほしい、などの要望もあり、これらに関しては他の短期コースも含めて今後の検討課題であろう。

④(国際保健分野)フォローアップ調査回答合計集計表

Q6. 本研修は役にたっていますか。

Q7. 本研修を他の人に勧めたいと思いますか。

| 回 答 | 研修生 | 回 答 | 研修生 |
|---------------|-----|-------------------|-----|
| 1 たいへん役に立っている | 7 | 1 強く勧めたい | 8 |
| 2 役に立っている | 3 | 2 勧めたい | 2 |
| 3 どちらとも言えない | 1 | 3 どちらとも言えない(人による) | 1 |
| 4 役にたっていない | | 4 勧めたくない | |
| 5 全く役にたっていない | | 5 絶対勧めたくない | |

研修報告

Q1 日本で受けた研修についての報告実施の有無

| | | | |
|---------|----|----------|--------|
| 1. 実施した | 10 | 2. していない | 1(日本人) |
|---------|----|----------|--------|

SQ1-1 (Q1で1を選んだ方へ) 報告した相手は?

| | | | |
|-------------|---|-----------|-------------|
| 1. 保健省幹部 | 5 | 2. 所属長 | 7 |
| 3. 所属部長 | 7 | 4. 所属部署職員 | 7 |
| 5. JICA 事務所 | 6 | 6. その他 | 1(地方局人材開発部) |

SQ1-2 報告へのコメントの有無、その内容

| | | |
|-----------|---|---------------------------|
| 1. コメント有り | 3 | 肯定的評価、研究内容の実現化奨励、JICAへの謝意 |
| 2. コメント無し | 7 | |

現在の職務

| | | | |
|-------------|--------|------------|---|
| Q2. 現在の職務は? | 在日時と同じ | 2 在日時とは異なる | 9 |
|-------------|--------|------------|---|

・同じだが、非常勤で臨床家向研修の講師も。今後、病院薬剤師から薬剤師養成機関での講師へ転進予定。

・臨床から技術・管理部門へ。

・結核研究所正規職員へ。日本、タイ、ザンビアにおけるTB?HIV研究、TB, HIV/AIDS国際コースに従事

・従前のものに従事しつつも、責任は拡大しており、保健省における政策開発部門で活発に参与している。更に公衆衛生について講義もする。

・我が自治体におけるあらゆる公衆衛生関連の計画、実施、管理

・従前は監視、発生時調査のチームリーダーであったが、現在は企画調整の質保全についての責任者

・従前にまして教育に従事している

・MPH取得によりJICAにおいてJunior-expert courseとしての地位を得ている。

2つの昇進。1.2010年まで衛生部長職の契約にサインしたこと。2. 前職も、州では第2番目に高い職位で責任も広範に亘る社会サービス管理補佐官代理に任命されていた。

Q2-1 帰国後、MPHコースで学んだことを活かして実施したことは何か?

・担当部署管理のために保健所内の課長職に向けパワーポイントを駆使して講義を行った。州代表管理チーム会議にも活発に貢献している。責任が広がり極めて多忙である。日本から帰国した後定めた最終目標は、州の保健システムの精査である。

・自分の部署で、予防医学(一次予防)のために患者さんに対してより時間をかけるという”5S スタイル適用を試みている。殆どの臨床家達は治療的医療のみ。

・村の健康維持グループや保健ボランティアに対して地域健康教育を実施している。

・生物統計学、疫学、保健システム管理などについて研修で学んだこと活用している。本年7月1日から10月3日まで、別の区の治療サービス、災害管理・監視責任者であった。

・修論作成時、とりわけ研究遂行時に、学んだことを反映した。

・科学院での研修で学んだ知識や技能を用いて、同僚の協力を得ながら、予算立案、監視、評価に関する企画マニュアルと研修資料を開発した。また、日本で学んだ参加型、刷新的なアプローチ法を用いてヘルスマネージャの研修を実施している。

・結核コントロールの領域で、地域結核ケアを進めてきている

・所属する研究所が実施する種々企画のための作業研究開発の企画調整責任者である。公衆衛生官吏として、他の機関と共に実施する調査研究に参加し、また、地方の保健スタッフやカンボディア医科大学向けの疫学や疾病調査システムに関する研修を提供した。

1. 本を書くグループに入り、本年5月に出版した。2. 日本からの帰国後、地方の衛生関連当局の顧問として勤務している。

・既習の手法を用いて、ワークショップを行った。

・科学院で学んだことを直接活かしたことは未だないが、日々の業務の中で、必要がある時にはいつも学んだ知識や記録等を思い起こしている。

Q2-2 MPHコースで学んだことを現在の業務に活かす上で支障になった主因は？

・学んだことを実行することは、日本にはあった種々の資源や後方支援が全くない状況で大変挑発的なことである。日本は先進国でわが国は開発途上にあり、その途は遙かに遠い。しかし、限られた現有の資源を活用して最善を尽くすべく努力している。

・教育や関わり合い、支援がとぎれること、遂行すべき理想や使命がないこと。

・無し(Teng Srey, Cambodia)

・わたしは現在のペースに満足しており、問題はない。(O'Neil, Jamaica)

・日本在住なので問題は生じない。

・発展途上国では適用できない科目や講義もあり、それらは実際には実施できない。

・主な問題はプロジェクトの資金。

・疫学と生物統計学はもっと分かりやすく明確であるべき。疾病監視を支援するための実習時間を研修の中に設けて欲しい。

・国際保健分野で活動したいと思っているが、現在家族の世話をしなければならず海外に渡ることは容易ではない。また、単に看護師資格を有しているのみなので、日本では公衆衛生活動ができない。公衆衛生の地域活動に携わりたいので、1年かけて、保健師資格を取得する必要がある。

・反映させるには、資料を再度熟読する必要がある。それには時間が掛かり、今すぐというわけにはいかないが、これは自分の問題であると考える。

Q2-3 今の仕事で次なる行動は？

・我が県の保健サービスシステムを精査して、大変革したい。(Bernard B.M., Papua New Guinea)

・労働条件の改善、継続教育(OJT)を推進できるようにしたい。

・地域住民への健康教育を実施し、当部で実施する調査に参加してもらうこと。

・今回の奨学金受給の結果ジャマイカ政府に5年間雇用されているが、その後は転進を図るつもりである。

・これまでの成果をまとめ、公表する。

・企画、監視、評価部門の保健関係従事者の能力増進を目指している。これから地方の保健従事者の研修も実施したい。

・我が州における母親死亡率の低減のため全力を尽くしたい。

・本研究所におけるMPHコースの講師を務めることになろう。従って、疫学と生物統計学についての知識を改善しなければならない。

・マイクロソフト・オフィスに入っているVisual Basic Application についてしっかり勉強して、データや資料をもっと効果的に処理できるようにしたい。

・自分の専門を特定し、それを極めること。(日本人)

・現在参加しているJICAプロジェクト研修の運営。

| | | | |
|--------------------------|----|------------|---|
| Q2-4 日本で習得した知識・経験を使用したか？ | | | |
| 1. 使用した | 11 | 2. 使用していない | 0 |

SQ2-4 それはどの領域のもの？

| | | | |
|-----------------|---|----------------------|---|
| 1. 公衆衛生学原論 | 8 | 2. 保健政策学・財政学 | 4 |
| 3. リーダーシップと情報伝達 | 8 | 4. 研究・開発(特別研究・合臨を含む) | 9 |
| 5. 企画・監視・評価 | 8 | 6. 管理能力 | 9 |

修了生間でのネットワークについて

Q3 修了生間で保健関連情報等の交換をしたことがあるか？

| | |
|-------|---|
| 1. ある | 7 |
|-------|---|

誰と？

| | |
|--------------|--|
| 1. MPH同期の修了生 | Samuel 2, Pheak 2, Ali, 具体名無し3, 村上, Onei Mekanía |
| 2. 他の研修の同期生 | Dr. Nyamragchaa Bertha, James, , |
| 3. 科学院職員 | 種田, 稲毛 兎玉2, 具体名無し, |
| 4. その他 | |

どんな情報を？

- ・基本的にはおしゃべり、日本からの帰国後何をしているか。美しき日本より戻って同期生が昇進したことを知るのには教務深かった。
- ・公衆衛生全般。
- ・企画、監視に関する研修能力増進、DPH研究テーマについて
- ・自分の業務や責任について。
- ・自分が従事している業務について。
- ・DPH進学のため、各国での事情照会
- ・帰国後の状況、地位、出来事。時折励まし合っている。

| | |
|-------|---|
| 2. ない | 4 |
|-------|---|

何故？

- ・当方には共有すべき新しい情報がない、マラリア、結核、HIVなど感染症については途上国の事情は同じ。最善を尽くしても、殆ど状況は変わらない。
- ・地方に出かけていって研修を実施したり、地域を取り込んだ小児疾病管理カリキュラムの改訂等で多忙である。加えて、わが国ではインターネットへのアクセスが制限されている。
- ・現状では情報交換の必要がない。将来必要が生じたら、連絡を取る。
- ・私は連絡を取ろうとしたが、返事がこなかった。

Q4 取得したMPHIは、直接又は間接的に、昇進に相当するものか？

| | | | | |
|--------|----|---------------|---|---------------|
| 1. 値する | 10 | 2. 値しない / 何故？ | 1 | 日本国内に留まっているので |
|--------|----|---------------|---|---------------|

どのように？

- ・地方保健サービス部長と地域TB責任者に昇進した。
- ・MPHIによって私のキャリアは随分進展している。保健省の、企画、政策、指導方針の開発や予算編成、モニタリングや評価など、広範な活動に従事している。
- ・技能や言語を遂行する能力
- ・MPH取得によりJICAにおいてJunior-expert courseとしての地位を得ている。
- ・幾分か。
- ・直接。政策決定による。
- ・より多くの経験、学習をして、当部における業務遂行能力を改善することができた。
- ・より多くの知識を得、より適格者となった。
- ・大変値する。MPHがなければ、昇進することは出来なかった。JICAとNIPHには心から感謝している。

Q5 科学院のDPHコースに関心があるか？

| | | | |
|--|----|-------|---|
| 1. ある | 10 | 2. ない | 1 |
| <p>・現在研究課程在籍中 2人</p> <p>・DPHは取得したい、日本で実現できれば幸いである。修論を発展させたい。</p> <p>・HR とかヘルスケア環境の安全性などの領域についてもっと専門性を高めたい。</p> <p>・指導に当たってくださった先生方の助言がとても役に立った。しかし、更なる研究に取り組む前に、MPHで学んだことを実際に活かすための時間がまず必要である。</p> <p>・所属する部を指導していく技能や能力を改善したり、更なる能力や知識が求められる種々の活動に参加するため。</p> <p>・キャリアアップのため。</p> <p>・ヘルスシステムを考慮に入れながら、如何にすれば出産しない相談件数を増やすことができるかという私の研究を完成させたい。</p> <p>・DPHコースで更なる原理や実習をもっと学びたい。</p> <p>・研究知識と業務遂行強化のため。</p> | | | |

分野責任者のコメント

昇進、講師への転進、臨床から技術・管理部門へ異動など、本研修がキャリア・パスの上で役立っているとし、MPHが非常に重要であることが明らかとなった。

研修で修得した知識・技術は全員が活用しているが、実際の活用においては、プロジェクト資金などの資源が限られている、修得した理論や方法論の中には、発展途上国での応用が難しいものがあるなどの制約も指摘された。

⑤(健康危機管理分野)フォローアップ調査回答合計集計表

Q1. 本研修は役にたっていますか。

| 回 答 | 派遣元 | 研修生 |
|---------------|-----------|-----------|
| 1 たいへん役に立っている | 1(100.0%) | 3(75.0%) |
| 2 役に立っている | 0(0.0%) | 1(25.0%) |
| 3 どちらとも言えない | 0(0.0%) | 0(0.0%) |
| 4 役にたっていない | 0(0.0%) | 0(0.0%) |
| 5 全く役にたっていない | 0(0.0%) | 0(0.0%) |

SQ1-1 (Q1で1, 2を選んだ方へ)どのような点で役に立っていると感じますか。(自由記載)

集団の健康管理が求められる海上自衛隊として、実地疫学は大変有用であると感じております。研修におきましては大変お世話になり、ありがとうございました。

行政経験がなかった私にとっては、非常に勉強になった。特に、自治体を対象に疫学調査を行ったFETP在籍時はNIPHで学んだ事柄が不可欠でした。

公衆衛生・統計学・疫学など、学びたい希望があってもなかなか機会がなかった分野が系統的にじっくり学べた。研究論文に応用する事でより深く身についたと思います。

感染症疫学の知識・経験が公衆衛生の現場で働く際に(感染症対策をすすめる上で)役に立っている。集団の健康管理を行う上で大変役に立っています。実地疫学及び健康危機管理について系統的に学ぶ事ができました。

SQ1-2(Q1で4を選んだ方へ)役に立っていない理由

| |
|--|
| |
|--|

SQ1-3(Q1で5を選んだ方へ)全く役にたっていない理由

| |
|--|
| |
|--|

Q-2. 今後も本研修に職員を派遣したいと思いますか。

| 回 答 | 派遣元 |
|-------------|-----------|
| 1 ぜひ派遣したい | 1(100.0%) |
| 2 派遣したい | 0(0.0%) |
| 3 どちらとも言えない | 0(0.0%) |
| 4 派遣したくない | 0(0.0%) |
| 5 絶対派遣したくない | 0(0.0%) |

SQ2-1(Q2で4を選んだ方へ)派遣したくない理由

| |
|--|
| |
|--|

SQ2-2(Q2で5を選んだ方へ)絶対派遣したくない理由

| |
|--|
| |
|--|

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

| |
|--|
| |
|--|

Q-2. 本研修を他の人に勧めたいと思いますか。

| 回 答 | 研修生 |
|-------------|-----------|
| 1 強く勧めたい | 2(50.0%) |
| 2 勧めたい | 2(50.0%) |
| 3 どちらとも言えない | 0(0.0%) |
| 4 勧めたくない | 0(0.0%) |
| 5 絶対勧めたくない | 0(0.0%) |

SQ2-1(Q2で4を選んだ方へ)勧めたくない理由

| |
|--|
| |
|--|

SQ2-2(Q2で5を選んだ方へ)絶対勧めたくない理由

| |
|--|
| |
|--|

Q3. 科学院の研修全般へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記載)

平素より大変お世話になっております。上記の通り実地疫学及び健康危機管理の研修は有用であるものの、組織内の医師不足のため、継続的な派遣が困難なところです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

個々の分野は素晴らしい先生が多く、授業も充実していたが、横のつながり、連携が悪く、内容のダブリ、意見の食い違いなどが多かった。さらに効率化を図っていただければよりよい研修になると思う。

①講師の質の向上②カリキュラムの重複の改善③研修期間の短縮

大変お世話になりました。

研修主任の総括的コメント

概ね有用である旨の回答であった。「実地疫学や公衆衛生について系統的に学べた点が役に立った。」、特に行政経験のない研修生からは「自治体対象の感染症疫学調査では科学院の学習が不可欠であった。」などの意見がみられた。科学院研修全般に対しては「カリキュラム重複の改善」等があり今後の運営に際し参考にすべきと思われた。

個別質問

(健康危機管理分野)フォローアップ調査

1. 本研修課程は、「広い視野に立って公衆衛生、保健医療福祉に関する精深な知識、技能を習得し、感染症対策に係る健康危機管理分野において、指導的立場で実地疫学を推進するために必要な能力を養う」ことを目的としています。

研修プログラムの内容は、この目的で学習するにあたって必要だと思われましたか？

| | |
|-------------|-----------|
| ①とても必要と思う | 1(33.3%) |
| ②必要と思う | 0(0.0%) |
| ③どちらとのいえない | 1(33.3%) |
| ④あまり必要と思わない | 0(0.0%) |
| ⑤全く必要と思わない | 0(0.0%) |

2. 研修終了から6カ月が過ぎましたが、専門課程Ⅱ健康危機管理分野(FETP)で習得した内容は、現在の業務に役立っていますか？

公衆衛生行政における専門家の役割に対する理解

| | |
|--------------|-----------|
| ①大変役立っている | 1(33.3%) |
| ②少し役立っている | 1(33.3%) |
| ③どちらとも言えない | 0(0.0%) |
| ④あまり役立っていない | 1(33.3%) |
| ⑤まったく役立っていない | 0(0.0%) |

感染症対策における実地疫学についての理解

| | |
|--------------|-----------|
| ①大変役立っている | 2(66.7%) |
| ②少し役立っている | 0(0.0%) |
| ③どちらとも言えない | 0(0.0%) |
| ④あまり役立っていない | 0(0.0%) |
| ⑤まったく役立っていない | 1(33.3%) |

感染症調査における実地疫学を中心とした専門知識・技術の習得

| | |
|--------------|-----------|
| ①大変役立っている | 2(66.7%) |
| ②少し役立っている | 0(0.0%) |
| ③どちらとも言えない | 0(0.0%) |
| ④あまり役立っていない | 0(0.0%) |
| ⑤まったく役立っていない | 1(33.3%) |

平常時を含む感染症危機管理の視点で行うべき対策の構築についての専門知識・技術の習得

| | |
|--------------|-----------|
| ①大変役立っている | 2(66.7%) |
| ②少し役立っている | 0(0.0%) |
| ③どちらとも言えない | 0(0.0%) |
| ④あまり役立っていない | 1(33.3%) |
| ⑤まったく役立っていない | 0(0.0%) |

世界における感染症対策との整合性を視野に入れ日本の感染症対策を評価するための専門知識・技術の習得

| | |
|--------------|-----------|
| ①大変役立っている | 1(33.3%) |
| ②少し役立っている | 1(33.3%) |
| ③どちらとも言えない | 1(33.3%) |
| ④あまり役立っていない | 0(0.0%) |
| ⑤まったく役立っていない | 0(0.0%) |

世界における感染症対策との整合性を視野に入れ、より適切かつ妥当な日本の感染症対策を構築するための専門知識・技術の習得

| | |
|--------------|-----------|
| ①大変役立っている | 1(33.3%) |
| ②少し役立っている | 1(33.3%) |
| ③どちらとも言えない | 1(33.3%) |
| ④あまり役立っていない | 0(0.0%) |
| ⑤まったく役立っていない | 0(0.0%) |

3. 今後も、「専門課程Ⅱ健康危機管理分野(FETP)」は必要と思われませんか？

| | |
|--------|-----------|
| ①必要と思う | 3(100.0%) |
| ②必要ない | 0(0.0%) |
| ③わからない | 0(0.0%) |
| ④その他 | 0(0.0%) |

4. 今後、「専門課程Ⅱ健康危機管理分野(FETP)」で希望する内容がありますか？

| | |
|------------|-----------|
| ①希望する内容がある | 1(33.3%) |
| ②希望する内容はない | 1(33.3%) |
| ③わからない | 1(33.3%) |

研修に「①希望する内容がある」と答え方は、どのような内容ですか？
希望される研修内容を具体的にお書き下さい。

疫学以外にも、感染症の集団発生に対する1.初期対応2.リスクアセスメントについてより研修を充実するとよいと思う

5. あなたは病院職員や地域住民など他の人々に対して、感染症対策の専門家としての活動を何らか行ったことがありますか？

研修受講前

| | |
|-----------|-----------|
| ①ない | 3(100.0%) |
| ②検討中 | 0(0.0%) |
| ③行ったことがある | 0(0.0%) |
| ④不明 | 0(0.0%) |

ある場合具体例

| |
|--|
| |
|--|

研修受講中

| | |
|-----------|-----------|
| ①ない | 0(0.0%) |
| ②検討中 | 0(0.0%) |
| ③行ったことがある | 3(100.0%) |
| ④不明 | 0(0.0%) |

ある場合具体例

実地調査
調査、講演
主に自治体職員に行った

研修修了後(現在)

| | |
|-----------|-----------|
| ①ない | 1(33.3%) |
| ②検討中 | 1(33.3%) |
| ③行ったことがある | 1(33.3%) |
| ④不明 | 0(0.0%) |

ある場合具体例

病院、地域住民、県職員、他自治体職員

6. 今後も、「専門課程Ⅱ健康危機管理分野(FETP)」の専門家養成コースに関する活動への何らかの関与・協力を希望されますか？

| | |
|----------------|-----------|
| ①積極的に協力したい | 1(33.3%) |
| ②積極的ではないが協力したい | 1(33.3%) |
| ③協力を希望しない | 0(0.0%) |
| ④わからない | 1(33.3%) |
| ⑤その他 | 0(0.0%) |

その他具体的な例

7. 「専門課程Ⅱ健康危機管理分野(FETP)」に関しご意見がありましたらお書き下さい。

大変お世話になりました。和光と新宿を行き来して実地疫学と健康危機管理について学ぶ事ができました。ありがとうございました。

分野担当責任者の評価、分析、コメント